

登録コード	E2017900	開講年度	2026				
授業科目	評論文講読				担当教員	西 一夫	
英文授業名	Reading of the Explanatory Notes and the Critical Essays				副担当	藤原 崇雅	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	3・4年
講義室	教育M301	講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	
備考							
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				中等教育における説明的文章或いは評論文と称される領域の教材を集中的に取り上げて教材の目的や教材研究の方法、さらには批評する力の育成など、新たな学習指導要領で求められている資質・能力の育成に資する授業構想ができ、さらに評価問題を作成することができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	中等教育における説明的文章或いは評論文と称される領域の教材を集中的に取り上げる。教材の目的や教材研究の方法、さらには批評する力の育成など、新たな学習指導要領で求められている資質・能力の育成に資することを目的とする。						
(5)授業計画	担当教員が中等教育の実務経験を活かして講義します。 第1回：古典領域（古文：俳論）【西】 第2回：古典領域（古文：歌論）【西】 第3回：古典領域（古文：能楽論）【西】 第4回：古典領域（古文：古文の論理的文章）【西】 第5回：古典領域（漢文：論説文・雑説）【西】 第6回：古典領域（漢文：論説文・韓非子）【西】 第7回：古典領域（漢文：論説文・孟子）【西】 第8回：近現代領域（説明的文章の種類と系統性）【藤原】 第9回：近現代領域（中学校1年生の教材：説明文）【藤原】 第10回：近現代領域（中学校2年生の教材：説明文）【藤原】 第11回：近現代領域（中学校3年生の教材：評論、説明文）【藤原】 第12回：近現代領域（現代の国語の教材：評論）【藤原】 第13回：近現代領域（論理国語の教材：評論）【藤原】 第14回：近現代領域（説明的文章の評価問題の作成法）、授業アンケート【藤原】 教育実習の補講については各担当者から指示する。						
(6)成績評価の方法	以下の要領で評価する。 ■【中間評価・古典領域】：受講生各自の興味関心に応じて、取り上げた教材から1つ選び、評価問題を作成する。（25点） ■【中間評価2・近現代領域】受講生各自の興味関心に応じて、取り上げた教材から1つ選び、評価問題を作成する。（25点） ■【最終評価】授業全体を通して、論理的な文章の国語科に於ける役割や教材化の問題などを課題設定した最終レポート。（30点） ■【各回評価】各授業での理解度を確認するための小テスト（20点） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：次回授業で取り上げる章段を事前に読み、内容を理解して課題を設定する。 事後学習：取り上げた章段の内容を振り返り、解釈で問題となった表現について再吟味する。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	基本的な文学史の知識、文法事項・教材研究の力量が求められてくる。また事前に取り上げる教材を読み予習が必要となる。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 【西】研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp 【藤原】研究室：中校舎4F 407 内線番号：4077 アドレス：fujiwara_takamasa@shinshu-u.ac.jp						

【教科書】	取り上げる教材の複写を配布する。
【参考文献】	その都度指示する。